

- 議 長 休憩を解いて再開します。 (13時30分)
- 10番 齋藤 受付番号第4号、齋藤永君の一般質問を許します。登壇願います。
- 藤 質問させていただきますけど、前の3人までが全員災害の話で恐縮ですけど、また災害ということでお願いいたします。受付番号第4号、質問議員、10番齋藤永。件名、災害対応について。
- 要旨。日々起こり得る自然災害、テレビでは予想をはるかに超えた雨量による崖崩れや土砂崩れ、巨大な台風にはなすすべもない状況です。さきの台風で、当町も何か所かの被害が出ております。住民の不安は募るばかりです。少しでも町民の生命と財産を守ることができるように対策を練られているとは思いますが、以下のことをお聞きします。
- (1) 台風時の避難所の設置の対応と、避難所での運営マニュアルは。
 - (2) 危険箇所の想定と対策は。
 - (3) 緊急輸送道路は復旧・復興時にも必要な道路です。酒匂川左岸縦貫道路は、国道255号線の代替経路に重要な役割があると思いますが、現在の状況と今後の計画は。
- お願いいたします。
- 町 長 それでは齋藤議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。
- まず、町全体として避難所の箇所数でございますが、自治会集会施設と学校、幼稚園など、30カ所を避難所に指定をし、また災害時における一時避難所、避難場所を、民間と協定をしており、立花学園高等学校や寄の民宿、ゴルフ場等の12カ所で協定を締結しております。また、大規模災害発生時や、火災延焼拡大から町民を避難させる場所として、一時避難場所を松田中学校、松田小学校、寄小学校グラウンド、JR松田駅前町営臨時駐車場など、9カ所を指定しております。
- 避難所設置の対応でございますが、被害が想定される場合において、段階ごとに事前配備、1号配備、2号配備、3号配備とし対応しております。台風等の影響が大きいことが予測される場合は、2号配備として係長以上職員などが参集し、避難所の開設について準備を行っています。台風の場合は、あらかじめ大雨、暴風になる可能性がわかるため、その都度状況を判断しながら避難所

の開設や場所について決定をしているところでもございます。

運営につきましては、避難所運営マニュアルに基づき、地域集会所が避難所となった場合は自治会が中心となって運営に携わりますが、町職員は自主防災会、避難者、自治会長と連携しながら、避難所運営の全般に携わることになります。

避難者への対応につきましては、職員が交代で対応に当たり、1避難所に2名体制で、避難されてきた町民の名簿作成、避難者情報を災害対策本部へ情報の伝達、避難者への生活支援、毛布や水の提供等の対応を行っております。

次に、2点目の危険箇所の想定と対策でございますが、現在土石流が全体で58カ所区域があり、松田地区20カ所、寄地区が38カ所であります。そのうち、特別警戒区域が松田12カ所、寄18カ所となっております。また、急傾斜地の崩壊では44区域が指定され、松田地区20カ所、寄地区24カ所が指定されております。さらに洪水につきましては、酒匂川左岸の山北町から新十文字橋付近までの護岸浸食、川音川両岸の川の氾濫による浸水エリアが示されております。現在、この危険箇所を示す洪水ハザードマップを作成しており、土砂災害ハザードマップも重ねた災害想定図を作成しているところでもございます。

その中で表示する情報の意味を、町民が直感的に理解できるよう、防災情報を5段階に分けて、情報と行動の対応を明確にしていくこととしております。来年2月末までには全世帯に配布し、町民に対し説明会を開催する予定で準備をしているところでもございます。この洪水ハザードマップから、地域の危険箇所を町民みずから認識して、危険箇所を回避する行動がとれるよう、しっかり町民に説明していきたいというふうに考えております。

また、道路関連施設として、過去の災害履歴から、土砂崩れや倒木による通行どめになった箇所について、台風等の通過後に重点的に道路パトロールを実施しております。松田地区では町道7号線、東名の側道、町道25号線、寄地区では今回被災をしました町道寄11号線、町道寄2号線などが挙げられます。また、十文字橋につきましては、開成町とも連携して通行どめの基準水位により、道路規制を行っております。

3つ目の質問についてお答えをさせていただきます。初めに、緊急輸送道路

の役割や目的について御説明をさせていただきます。緊急輸送道路は、地震や台風などによる大型災害発災直後から、救助活動人員や物資等の緊急輸送を、円滑かつ確実にを行うために指定された路線であるため、災害時において優先的に復旧を行う路線であり、かつ自然災害への安全度を高めるため、道路施設の防災対策を優先して推進する路線となります。

それでは御質問の、酒匂川左岸縦貫道路は国道255号線の代替経路となる重要な役割であり、現在の状況と今後の計画についてお答えをさせていただきます。現状といたしましては、神奈川県では県内道路管理者で構成する神奈川県緊急輸送道路ネットワーク計画等策定協議会において、各路線のネットワーク化を図っており、緊急輸送道路として酒匂川左岸縦貫道路の川音川以北の整備につきましては、県道711号、県道72号などの既存道路網が国道255号線の代替経路と指定され、十分なネットワーク構築がされていると考えられており、また現在、施工されている新東名高速道路が2023年に全線開通する予定で、高規格道路のダブルネットワーク化が図られ、新東名の秦野インターチェンジの開設もあり、さらなる災害時緊急輸送の拡充が期待されるところであります。このようなことから、酒匂川左岸縦貫道路の川音川以北の延伸等につきましては、具体的な計画がないということになりますので、御承知願います。以上でございます。

10番 齋 藤 お答えありがとうございます。まず1点目から行きます。避難所の設置が、集会施設で30カ所というお答えの中でした。まず、この前の大雨、19号のときは、これ避難所は何カ所設営されたんでしょうか。

参事兼総務課長 避難箇所としては6カ所設置をさせていただきました。

10番 齋 藤 6カ所のうち、松田町民文化センターも避難所となっていたのかと思いますけど、この、何ですかね、地域防災計画の中で、松田町民文化センターが、設置が昭和56年で、これ改修状況がEというランキングになっていて、新規…新耐震基準に満たない建物で、改修をされてるということになっているんですけど、この辺の改修度合いというか、これが大雨、台風、その他地震が来たときとかの対応に、ほとんど対応できるものなのかどうかをまずお聞きします。

参事兼総務課長 文化センターにつきましては、耐震診断後にですね、耐震補強を行っており

ます。特に渡り廊下、3階の渡り廊下の部分の改修を行ってですね、耐震的には地震に耐えられる施設ということで、改修が終わりましたということで御報告させていただきたいと思います。

10番 齋 藤 ありがとうございます。さきの台風のときに、川音川から南側の地区の人にちょっと言われたんですけど、あっち側には避難所の設置はあったんですか。

参事兼総務課長 店屋場地区ということでよろしいでしょうか。川音川の南側、左岸側の南側ということですので、店屋場地区になるかと思えますけれども、そちら、町屋もでございますが。そちらのほうには、避難所は設けてございません。

10番 齋 藤 あの辺に住んでいる方からですね、あそこの橋、文久橋でしたっけ、あそこに大量の水が流れてきて、ここは大丈夫なのかとか、松田町は一度、開成に行く橋が崩落した経験を持っているところなので、大量の水を見ると、御年配の方たちは、ちょっと怖いというイメージがあるらしいんですよ。あそこの地域の人たちは、そこを渡って体育館まで行くのが怖いというお話をいただいたんですけど、あちら側にどこか、そういうときに対応できるような避難所を設けたほうがいいのかなどは思うんですけど、その辺の対策はいかがでしょうか。

参事兼総務課長 お答えいたします。今回、洪水ハザードマップ作成しておりますので、その中で避難所は新しく設定していかなきゃいけないだろうということになっていきます。今現在は、松田中学校ということになっていきますけれども、洪水のときには避難所としては使えない施設になります。ですので、基本的には、文化センターの展示ホールまで避難していただくということになろうかと思えますけれども、その状況に応じてですね、避難できない状況に陥るかもしれませんので、その辺については、自治会等も含めてですね、避難所の今現在、ワークショップを開いてですね、協議しているところでございますし、場合によっては、大井町、隣接する大井町、開成町はちょっとあれですね、大井町のほうともですね、連携をもって、避難所を広域的に運営していくようなところの協議も、今後、必要ではないかなというふうに考えているところでございます。

10番 齋 藤 ありがとうございます。向こうの住まわれている方がね、どうしても川を渡るということについて怖いというイメージがあるらしくて、その辺のことを言われていたので、広域的に避難所を開設されるということは、とてもいいこと

だと思しますので、その辺は続けていただきたいと思ひます。

また、文化センターまで来なきゃという話ですけど、土砂災害のマップを見ますと、この役場と文化センターを挟んだ両側が土砂が流れてくるような図面を見たんですけど、ここがちょうど三角地帯で残されていくという状況になります。そうすると、外部との接続、接触ができない可能性も出てきて、ここが孤立してしまうんじゃないかなという懸念があるんですけど。この山合いにしかない、この町にとっては、土砂崩れ災害というのは、結構あるのかなと感じるんですけど、ここを避難所としたときに、救援物資とかその辺の対応が、3日はもつのもかもしれないんですけど、そこから、この道路をつくらなきゃいけなかったりとか、この辺でこの三角だけ残して…想定なんでね、もしかしたら、ここも崩れるかもしれない、かもしれないんですけども、その辺はどのようにお考えなんでしょうか。

参事兼総務課長 被害の程度にもよると思ひます。確かに、土砂災害のエリアに入っている部分がありますので、孤立するというようなことも考えられますけれども、その程度によって、当然、土砂を撤去しなければ輸送物資が運べないというような状況に陥るのであれば、やはり自衛隊等にですね、派遣要請をして、そういったものを撤去していくということが、当然、輸送にとっては大事なことで、そういう対応をとっていくのかなというふうに思ひます。ただ、そういうふうな状況になる前にですね、やはり避難していただくところが大事だと思ひますので、そのタイミングはしっかりと判断していかなくちゃいけないかなというふうに思ひております。

10番 齋藤 ありがとうございます。あと、この町にある病院、体が不自由な方たちが自宅で待機しているとか、そういった方たちへの対応策は、いかがなものですか。避難所に避難できないような。

福祉課長 町としてはですね、災害時の要支援者名簿を自治会のほうにお渡しをしておりますので、自治会のほうで、もし、そういう場合にはですね、例えば避難所までお運び、車を出す方ですとかサポートをする方とか、そういった方をですね、決めているところもあるというふうに聞いております。今後、さらにその活用方法につきましては、自治会のほうと協議をしていきたいと思ひます。

1 0 番 齋 藤 なかなか、個人情報で言いたくないような方たちもいるという話も聞いたりしているんですよ。ですけど、いざというときに、どこに誰がいてって、ある程度把握しないと、本当に対応できないのかなと思うので、その辺をきめ細かな形でやっていただけるようお願いしたいと思います。

2 番目の質問へいきます。これは危険箇所の想定、先ほどと変わりはないんですけど、土砂災害の箇所が町長のお話ですと58カ所あるということで、そこへの崩れた場合というんですか、58カ所が一気に崩れるとは思わないんですけど、今回の寄地区の通行どめとか、ああいう現況があったときに、何カ所かあった場合、町の業者さんに頼んで撤去とか処置をしていただくのかとは思いますが、この辺の協定とか結ばれているんでしょうか、お願いします。

参事兼総務課長 協定の関係ですとですね、応援協定に関するものということで、その中に地元の建設・土木関係の業者さん、それとあと松田地区の建設業協会さん、このところとですね、災害に対する支援と応急対策ということで協定を結んでございます。今回の19号の現在復旧、土砂撤去を含めてですね、そういった地元の業者さんの土木・建設業の業者さんのほうで、緊急的に対応していただいているというのが現実でございますので、こういった協定に基づいて実施していただいているということで認識してございます。

1 0 番 齋 藤 あと、その道路の撤去とか以外にですね、例えば自動販売機だとか、遠隔操作で勝手に出るようにできるような機械、ありますよね。物資の提供を即座に対応していただけるとか、あと、けがしたときに、どこかの薬屋さんとか何か提供してもらえらだとか、そういった、それ以外の生活に必要なものに関しての、衣類なんかもそれに当たるのかなと思うんですけど、その辺の協定もされているんですか。

参事兼総務課長 自販機、水の提供ですとかですね、自動的にそれを災害のときには取り出せるというようなものもあるかと思います。それとあと、けがの関係なんですけど、今現在、町として協定を結んでいるのは2社、生活物資の提供に関するということで2社のところと協定を結んでいます。平成28年にですね、2社と、今現在、株式会社クリエイトさんとですね、株式会社杉山さんとですね、これは災害時の物資、生活必需品の物資支援というところで協定を結ばせていた

だいております。そういった中で、薬の取り扱いもごございますけれども、必要に応じて、その辺は対応していかなくちゃいけないかなと思いますが、特にそのきめ細やかなですね、その品物に対しての協定はございませんので、今後、その辺はしっかりとその協定の中で具体的に支援していただくものも、一覧としてですね、つくっていく必要があるのかなというふうに考えてございます。

1 0 番 齋 藤 今回のように、1日や2日で処理ができてしまうような避難ですといいんですけど、長引いたときのね、問題で、今、そういったことがよくテレビで、女性用の何とかが足りないとか、いろいろな話が出ておりますので、その辺、ある程度、そういったものをどこから供給していただけたらとか、対応できるような策を練っていただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続いて3番目です。酒匂川左岸縦貫道路に関してですけど、先ほど町長のお答えが県のネットワークを回しているということで、緊急輸送道路で酒匂川左岸縦貫道路に関しては、たしか2次…1次が255号線で2次としてあるという状況下だと思うんですけど、地図を見ただけで、どうしても、松田町の…大井町の金手ですか、あそこでとまっている。2次路線として対応している道路の割には、松田のところまで来てないというのが、すごく不安な状況下だと思います。これが県の緊急輸送路についての、第2次緊急輸送道路が酒匂川左岸縦貫道路に当たるんですけど、第1次緊急道路を補完し、地域ネットワークを形成する路線及び市町村庁舎等に連結する路線と書いてあるんですけど、結局あそこまで来てから、文久橋を渡ってこっちに来なくちゃいけないのが2次路線の状況下になっているんですけど、先ほどの災害のときの水害が文久橋を破壊してしまう可能性もありますので、できるだけ橋、何本かあったほうがいいのかなと思うんですけども、町内に入り込む、直接、本来ならこの役場につながっていくような路線をつくっていかなくちゃいけないのかとは思ひます。まして、その246に続ける、ぶつけると、この流れをつくってこそ、初めて緊急用路線の、第2次緊急輸送道路としての役目が出ると思うんですけど、この辺、今、計画がない状況だということなんですけど、これでいいのかなと思うんですけども、どう思ひますか。

まちづくり課長 それでは、お答えいたします。先ほど議員おっしゃるとおり、左岸縦貫道とおっしゃられている路線は、既に県道711号線という名前に変わっております。県道711号線が2次輸送道路として認められておりますので、大井町の境のところから藤沢自動車のほうに曲がっているのが711で、その後、松田町内にずっと駅のほうに入ってくる路線が、711がその72号、もとの愛隣堂さんの角までが711の緊急輸送道路と決められています。それからもう1点、橋の話も出ています。おっしゃるのも何となく、橋に対して不安が残るということでございますけれども、255号線が72号、昔のモービルの、大井町のところのサワ石油さんですか、昔のサワ石油さん、あのモービルのところから72号も2次輸送道路になっています。72号を入れて、神山の中を通って行って、また橋、籠場橋ありますけれども、当然、橋は、松田に入るにはどこか橋を渡らなければ入れないということが考えられますので、あの72号も緊急輸送道路になっておりますので、71号、711、72号という形で町内に入ってくることは可能だと考えます。以上です。

10番 齋藤 言われるの、よくわかるんですけど、今言った、橋2本、で線路、東北の災害のときに線路に電車がとまってしまっていて動けない状況下、それと今、第2東名、私、地図つくってきました。第2東名がここにできますよね、秦野のインターがここにできます、今、大井松田の第1東名のインター、1日3万7,000台、ものすごく渋滞しています。災害が起きたときに、ここに車を置きっ放しの状態というのが、かなり考えられることがあります。それで、今後ですね、246のバイパスがこのオレンジ色の点々でここまできてる。ここで、これ厚木から以北の件ですけど、ここからの車も、南下したい場合は通常災害じゃなくてもですね、ここに来たら第2東名に乗るわけでもなく、伊豆・箱根に行く車は南下してきますよね。そうすると必ず、この松田町の籠場橋まで車が来るんですよ。今でこそ、この近くの3万7,000台のところ、第2東名からの車が流れ込んできたときに、相当な交通量になるんじゃないかと。

もともと、この酒匂川縦貫道路というのは、255号線の渋滞を回避させるという意味もあったとお聞きしております。もともとですね、昭和62年、神奈川県都市計画課において酒匂川左岸道路に関する調整会議が行われた。これ議

事録を入手してきました。ここにおいてですね、県西地域の南北主要交通軸として位置づける道路だと。松田町内を通過して国道246号線までとりつけなくてもいいのかという問題提起がされています、このときに。松田町の答えですけど、通過交通のみ道路は町に何のメリットもないという答えなんですよ。だけど、今言われたように、緊急輸送道路というのは、何かあったときに物資を運んできたりする道路ですよ。これが本当に当時の町の行政の考えだと思うんですけど、メリットないで蹴飛ばしているんですよ。もともと、この状況から酒匂川左岸道路を町の中に入れ込むのは意味ないよという行政の判断の結果が今、出ています。松田町は本町は本道路計画は一切位置づけられてないと、この時代から答えが一緒なんですよ。

それと、これに対してですね、県のほうが、やはりその地方トリップ交通書について、交通マスタープランの中に位置づけていくというものを前提として話をしていけないといけないんじゃないかということで、本来なら、25メートル道路を4車線もってきたいところを、大井町で20メートル、だけど大井町は16メートルにしてくれと。松田町入ってから9メートルなんです。というのを主張していると、この当時。ですので、松田町はもともとこの緊急輸送道路の感覚が余りなかったのかなと。川音川のあの橋と神山の橋しかない状況で、246号線、先ほどの町長の答えだと第2東名とかありますけど、結局、山の中を通ってきますし、山沿いの道路ですから、土砂崩れ、崖崩れがある可能性もたくさんある。また、土砂崩れのマップの中に246のところ、何か所も土砂崩れの図面が書かれていた図面が出ていると思うんですけど。そうすると、松田町は孤立してしまうのかなという懸念がすごくあるんですけど。まして、これから今、駅前計画とか、いろいろありますよね。そういった中に、こういう大きな道路を一緒に挟んでもってきて、災害時に使える道路として一緒にやる。側道の設置として、県道から側道、駅へつながる道とか、そういったものの補助金とかも出てくるとは思うんですけども、お金を余りかけずに町の中に、今やろうとしている松田町のこれからの駅の開発、ましてこの道路が、先ほど言った、第2次の緊急輸送道路として使える道路としての位置付けなんでね、そういったことを考えて、もう少し新しい道路のことを考えられたらいかがか

などは思うんですけど、いかがでしょうか。

まちづくり課長 議員おっしゃるとおり、道路の本数が多ければ多いほど、リランダシーの確保という、よく今、道路の事業では複数路線ですよ、そうったものを確保することが、防災であったり、いろんなことではメリットが大きいというふうに言われております。御提案されている内容もわかります。255号線の、あくまで1次事業の補完するものが2次事業と、2次の路線ということでありまして、まず255号線が普通に機能していれば、また東名が普通に機能していれば、その711について、橋が落ちちゃうとかという話よりも、まずは255号線の安全対策というのが、国なり県なり、国・県管理ですので優先されて、もう既に1号の緊急輸送道路になっているというところから考えてもですね、そういったものを強化していくと、優先して整備をしていくと。246に関しましても、1次輸送路になっておりますので、先ほど御提案ありました、山合いを通るので、例えば崖崩れはどうなのか、そういったことは、おっしゃられるってことわかりますので、町長等もですね、国に行ったときに、秦野から松田までのあの部分についての防災対策について、直接、町長から副大臣とかにもですね、お話しする機会もあったりして、そういったこともおっしゃってられますので、またその辺も、1次のほうをまず完璧にさせていただいて、その先に2次の輸送路について検討していきたいというふうに考えます、以上です。

10番 齋藤 言われることわかりますけど、今後、今、先ほど見せたように、秦野インターがここにできちゃったときに、1次としての、255号線のほうに南下したときの渋滞はさらにふえる可能性も出ていますので、この交通網をいかに分散させるか。道路って多分、ラダー状につくるのかな。ラダー状につくっていかなくちゃいけないんですけど、この酒匂川縦貫道路は途中で切れてしまっているところが、これを大きな道路にぶつけていかない限りは、分散することができないじゃないですか。極端なこと言えば、この酒匂川縦貫道路を寄のほうまで持って行ってしまおう。これはちょっと極端な話ですけどね。秦野インターからこの246に降りないで、酒匂川縦貫道路に流す道路をつくってしまうとか、そういったことをしない限りは、この255号線、松田と大井町の境あたりは相当渋滞するんじゃないかという懸念があります。今でこそ3万7,000台が、まして

246、バイパスも、この秦野インターのところまできている図面ですよ。これ
ができ上がったときには、さらにふえてきます。ですので、その辺がすごく心
配するところで、交通量の増加、そのときに災害が起きたときに対応ができな
いんじゃないかと。

道路つくるのには、何十年もかかると思います。ですので、ある程度、計画
の中に、さっきの62年の議事録の中に、計画を松田町は入れたらどうかという
問いかけがあってるんですけど、それが一旦は山北のほうに流しましょうよと
やってるんですけど、全部が向こうへ行くわけじゃないんですよ。南から上
がってきたり、道路を。今度は秦野方面に行く人もいます。今、立花学園の前
の土手道路、あそこはものすごい車たくさん通るんですよ。町屋地区の方か
ら、そこを通行していたら、車が2台通れる場所はあるんですけど、通れない
箇所もあるんですよ。そこで土手に落ちて入院したという方が、それも2回あ
ったと。すごく危険だと。住民の安心・安全を守るためにも、土手道路はあれ
県の管轄ですか、国…松田ですか。あそこ、立花学園の前のところだけちょっ
と広いんですけど、そこから先までが狭い。どうしても、橋をかけてないので、
あそこまで来た車が立花のほうへ曲がって行って、文久橋を渡って松田町
内に入ってこようとしています。なぜかという、やはり渋滞しているからなん
です、ほかの道路が。ですから、あの辺の処理を早くしてあげないと、住民に危
険が及ぶのかなと。若いお母さんなんか、あの辺に住んでいる人たちは、文
久橋回ってから小学校に行かなきゃいけない。今言った、その危険な道路の
ところを、土手道路を通って行くのに危ないと言われてるんですけど、その辺
の対策を早く考えていかないと、住民の方が、先ほど言ったように2回も土手
に落ちてる。歩道整備にはちょっとやりきれない道幅だと思いますし、何か、
だから橋をかけていったほうがいいのかなど。災害時はあそこ、ぴょんぴょん
橋っていうんですか。あそこはもう水没してしまっているので使えないです
し、まして、あの大量の水があるところを渡ろうと誰も思わないので、その辺
の対策は今後、松田の中に計画を入れていかれたほうがいいのかなどと思うん
ですけど、その辺についてはいかがなんでしょうか。

まちづくり課長 御提案ありがとうございます。町道16号線の堤防道路でございますけれど

も、堤防そのものは神奈川県管理ですので、堤防の高さを変えたりすることは、なかなかできないんですけども、そこを通る道につきましては、町管理の町道でございます。おっしゃられるとおり、現状の幅員が4メートル程度から5.5メートル、広いところで7メートルぐらいでしょうかね。確かに歩道もありません。路側の線も引けないぐらい狭いところもあります。今後はですね、あの道路についてですね、何回か拡幅、場所場所によってちょっと拡幅したりしているところもあるんですけども、拡幅するとですね、実は隣の宅地とのですね、勾配がどうしても民地側に追い込みますので、今より急になるというのが現実で、なかなか、例えば、2メートル道側に追うと、その分、2メートル平地がふえますので、その後には坂になると、なかなか車の取り付けが難しいということで、計画は何度か入れているんですけども、また今後、検討してまいりたいと思います。以上です。

1 0 番 齋 藤 ありがとうございます。実は、この質問ね、4年前に僕、酒匂川左岸縦貫道路の話をしているんです。そのときにも、検討していくで、4年間検討された結果が今どのぐらい出ているのかなと思ったんですけど。災害時にも使えななきゃいけない道路としていかなきゃいけないと。また、4年前にも、町長の答えでも、地域の方の安心・安全を守れるよう、検討する価値はあるというお答えをいただいているんですよ。ですので、今後その災害道路としての利用、左岸をどうするかとか、それに付随する側道の対応とか、道路一つで変わってきます。スーパーマーケット一つないこの松田町、ほかの地域はいっぱいありますよね。やはり、大きな道路沿いがあるからこそ初めて沿道サービスが出てきますし、橋つくったからって、そういうのが来るとはわからないんですけども、何しろ道路が主になっていかないと、今の危険回避とか対応するものをしていただきたいと思いますと思うんですけど、最後に町長、何かいただければと思います。よろしくをお願いします。

町 長 御意見としてはですね、よく内容はよくわかっていますし、承れることは承っていいかなというところもあります。いずれにしろ、道路行政だけをやっていくわけにもいかないの、さまざまなことを考えながら、やる必要があると思います。その道路を1本入れることによって、どれだけのお金が動き、ど

れだけ人が動きとかというのでも検討しなきゃいけないので、これから検討、検討って、なかなか、できる検討とできない検討があると思います。やるものとやらないもの、そういった面で検討してまいりたいと思います。以上です。

議

長 よろしいですか。以上で受付番号第4号、齋藤永君の一般質問を終わります。